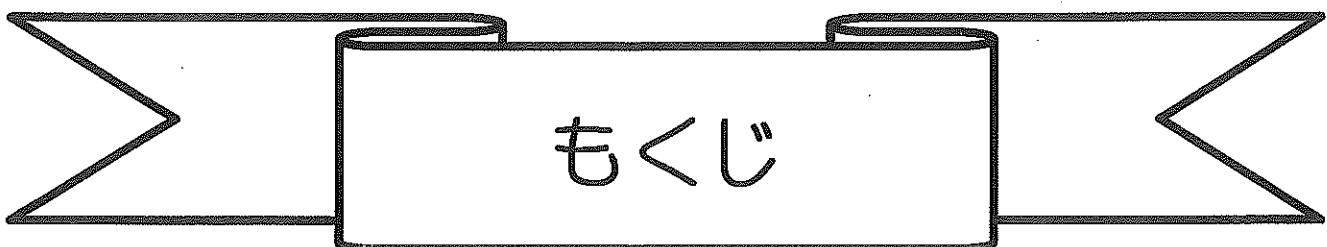


# 寺西 教えのスタンダード



東広島市立  
寺西小学校



もくじ	1
学級基盤づくり	2
1 子どもたちとの関係づくり	3
2 学級の仕組みづくり	4
3 「群れ」を「集団」へ	6
4 指導案づくり	7
5 授業の基本スキル	8
6 授業規律	11

## 学級基盤づくり

- 授業より学級作りを優先する
- 学級開き～黄金の3日間に必ずすること
  - ・出会いを大切にし、一人一人に声かけをして明日も来なくなるような工夫をする。
  - ・担任は、1年間を左右するという気概で臨む。学級つくりについての思いをしっかりと子どもたちに伝え、担任は確固たるリーダーシップをとる。
  - ・1年間続けられる学級経営システムをつくる。 クラスのルール、授業のルールをつくる。

### 黄金の3日間に向けてのチェック

- 子どもの名前を覚える
- 子どもの名前を見ないで言える
- 黒板に出迎えのメッセージや詩を書く
- 教室に花をかざる
- 学級経営ノートを用意し、学級経営案を書く
- 自己紹介、あいさつを考える（話すとおりにノートに書く）
- 3日間のタイムスケジュールを確認し、3日間でやることを具体的に時系列に沿って書き出す
- 最初の授業を考える

### 学級づくりの3原則

- |                       |
|-----------------------|
| 1 子どもたちとの関係づくり        |
| 2 学級の仕組みづくり           |
| 3 「集団」づくり（「群れ」を「集団」へ） |

# 1 子どもたちとの関係づくり

## (1) 「縦糸・横糸」を張る

縦糸(担任と児童の上下関係を基盤とするしつけや返事, 敬語, 学級内ルールなどの関係づくり)

- ① 学校でのしつけをしっかりする。
- ② 返事, あいさつ, 敬語などの言葉づかいをきちんとさせる。
- ③ 学級内ルールをきちんとつくる。
- ④ 教室環境を整える。(前面掲示, など)

横糸(担任と児童の心の通じ合い, )

- ① 子どもたちと一緒に遊ぶ。
- ② 教師が子どもたちと共に話し合う。
- ③ 教師が子どもたちの良い点を伝え, ほめ, 励ます。
- ④ 教室に笑いをつくり, 伸びやかな雰囲気をつくる。
- ⑤ 毅然とした態度で指導に臨む。



教室前面掲示



学校教育目標  
東広島スタンダード  
児童の作品  
学年目標  
五つの宝

## 2 学級の仕組みづくり

(1) 「3・7・30」の法則で学級システムをつくる。

- ①「3」出会いの3日
- ②「7」仕組みつくりの1週間
- ③「30」繰り返しの1ヶ月

1週間でつくり上げた仕組みを繰り返し徹底する。

学校の毎日の仕事を決める。自分たちで進めていける状態にする。

(2) 「スピード・テンポ・リズム」

くらしのスタンダードや学びのスタンダードのシステムをしっかりと理解させたうえで、「スピード・テンポ・リズム」に取組む。

- ① スピード…取りかかりのスピードがあがると学級が締まってくる。  
行動のスピードがつくと、子どもが落ち着いてくる。
- ② テンポ… 授業のテンポがあがると、授業に集中力がついてくる。  
空白の時間を作らない。
- ③ リズム… スピードやテンポがあがると教室にリズムが出てくる。  
繰り返す1日のリズムが身についてくる。



- 時間設定をする。  
(時間内に終わらせることを意識させる)
- はじめと終わりを徹底する。  
(指示を正確に聞き取らせるため、はじめの合図まで鉛筆を持たせない)
- 作業等をおわったら合図を送らせる。  
(鉛筆において姿勢を正す)

スピード・テンポ・リズムに取り組む

1. 朝の会、帰りの会→ 時間内終わる。
  2. 授業→ テンポよく展開する。
  3. 教室移動→ 音楽室、体育館などへの移動のしかたの徹底
  4. 体操着の着替え、給食の白衣の着替え
  5. 整列
- など

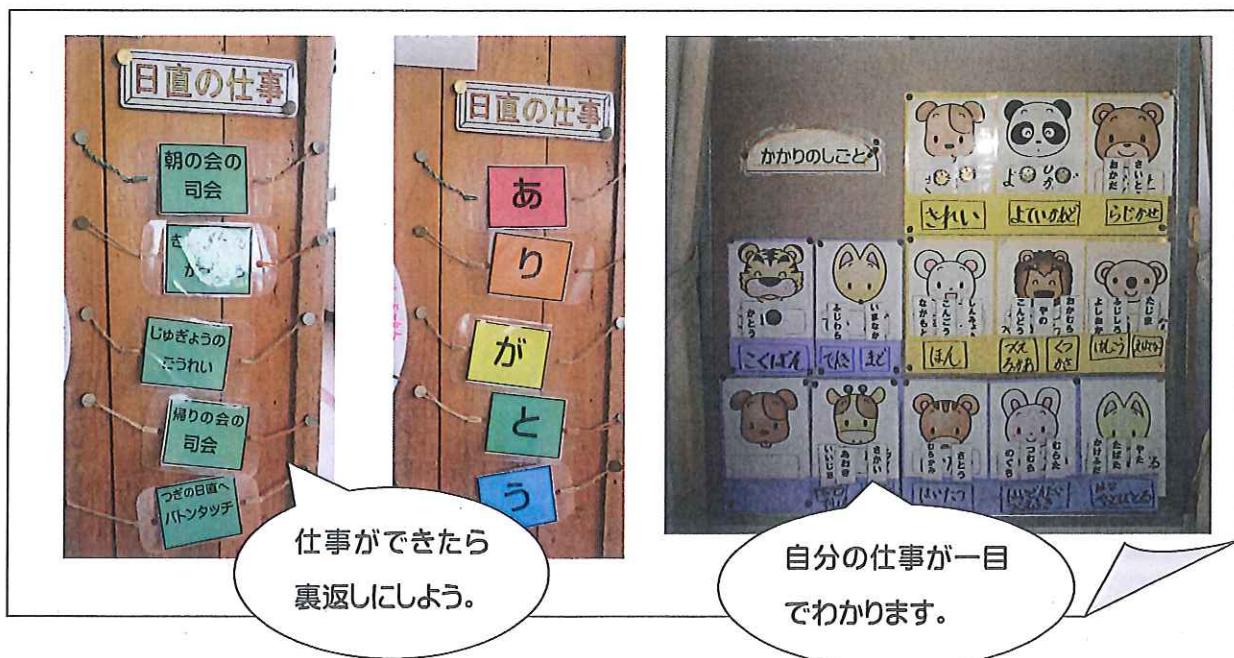
(3)全員当番のシステムづくりをする。

日直指導・当番指導・清掃指導・給食指導は一人一役で全員がきちんと学級の仕事を果たしていくことを徹底する。

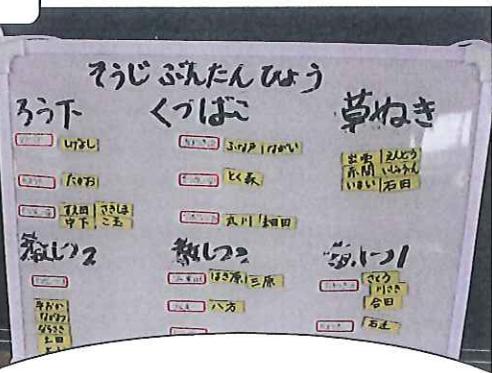
活動	めあて	評価
日直当番	・自分たちで1日を動かしていく「日直システム」をつくる。	・時間をチェックする(五つの宝)
係活動	・全員がきちんと学級の仕事を果たしていく(責任を持たせる)	・仕事をしたことが一目でわかるように工夫する。
給食当番	・準備はすばやく ・公平な配膳 ・きれいな片づけ	・着替えは3分を超えない ・平等に配膳できるように工夫する ・ストロー・袋・牛乳パック 食器・おたまのチェックをする
掃除当番	掃除分担  掃除点検	・どこを,誰が,何をするかを明確にしておく ・毎日評価をする。(五つの宝)

日直の仕事

係の仕事



### そうじ当番



一人一人の仕事をはっきりさせ責任を持たせます。  
「どこを誰が何をするか」

### 給食当番

	B	C	D	E	F
1	かとう	すえ田	ながまつ	船戸	三原
2	今い	かわ村	たかお	ならさき	細田
3	えんどう	さとう	中下	ひらおか	丸川
4	赤間	右近	こ玉	土田	とく森
5	いじゅういん	川さき	さきしま	土い	ながい
6	出雲	合田	しげよし		はぎ原
					わたなべ

だれが当番かすぐわかるようにしておきます。

グループの構成を工夫します。

### うまく学級が機能しているかを評価するための3原則

- |          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 1 朝会の様子  | きちんとならんでいるか おしゃべりをしないで話を聞いているか |
| 2 朝学習の様子 | おしゃべりをしないで自習をしているか             |
| 3 靴箱の様子  | 靴をきちんと揃えていりてあるか カかとを踏んづけていないか  |

## 3 「群れ」を「集団」へ 集団づくりの手立て

(1) 目標は具体的につくる。

- 学級の実態に合った目標にする。
- チェックが可能な目標にする。
- 完璧主義にならない。

(2) 「達成する」を大切にする。

- 達成したらしっかりと認めて自信をもたせる。
- 達成の基準を明確にする。

## 4 指導案づくり

(1) 単元目標を考える

(2) 本時の目標を設定する

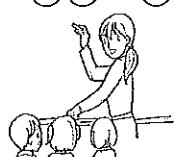
- ① 授業で何が分かってほしいのか、どんなことができるようになってほしいのか。
- ② ねらいを達成するために、どんな学習活動をするのか、どのような順番に構成するのか。
- ③ ねらいを達成するために、どんな教材や教具を準備するのか。
- ④ ねらいを達成するために、どんな発問や指示、説明を準備するのか。

(3) 指導計画をつくる

学習指導案の形式（例）

○○科学習指導案

指導者 ○○ ○○



1 日時・場所

2 学年・学級

3 単元名  
習得させるべき内容について、具体的に記述する。

4 単元について

○ 単元観  
既習事項やアンケート結果などを分析し、具体的に記述する。

○ 児童観  
指導方法の工夫、評価の進め方、指導上の留意点等を具体的に記述する。

○ 指導観

5 単元の目標  
本単元における到達目標を具体的に記述する。

6 単元の評価規準

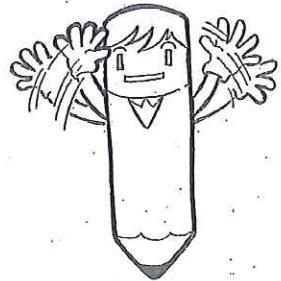
7 指導と評価の計画  
目標と評価規準は表裏  
教科によって、評価の観点は異なる。

次	学習内容（時数）	評価				
		関	思	技	知	評価規準
8 本時の展開						
(1) 本時の目標	「5 単元の目標」を踏まえて、重点化した具体的な本時の目標を記述する。					
(2) 観点別評価規準						
(3) 準備物	「6 単元の評価規準」から本時レベルにおろした評価規準を示す。					
(4) 学習の展開						
学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法			

## 5 授業の基本スキル

### (1) 指導言葉を整えよう

- 発問・指示・説明は区別して、目的に応じて使い分ける。
  - ・発問…考えさせる発問「～ですか。」「～何でしょう。」「～いますか。」
  - ・指示…行動させる指示「～しましょう。」「～します。」
  - ・説明…短く、分かりやすい説明



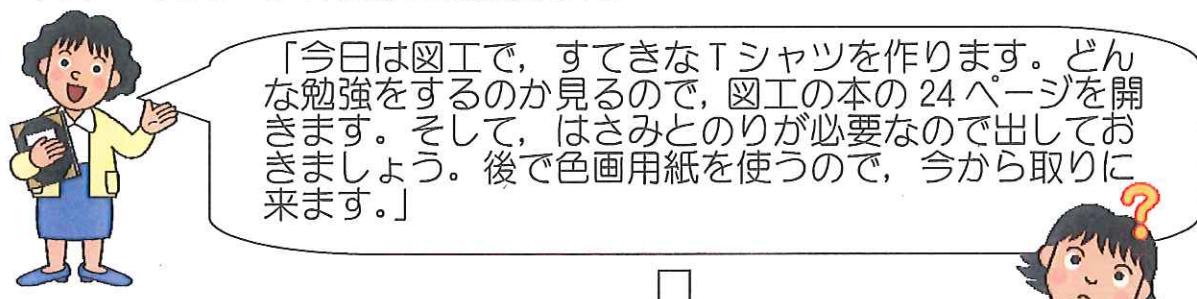
### (2) 無駄な言葉を排除しよう

- 指示したことと、言葉を変えて繰り返して言わない。
- 子どもの発言を繰り返さない。

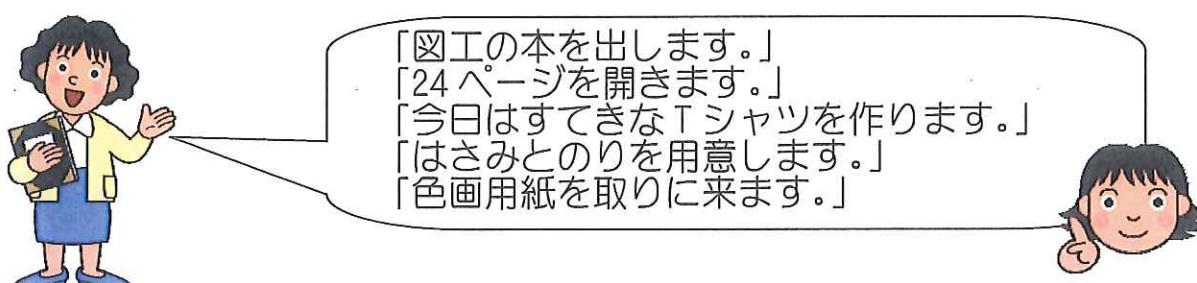
### (3) 子どもへの視線を鍛えよう

- 「流れる視線」から「とらえる視線」へ
  - ・見る子どもを1人に決める。毎日見る子どもを変え、見た子どもについてはメモしておくことから始めてみよう。

### (4) 一時に一事の指示を徹底しよう



指示が全体に徹底しているかどうか確認してから、次の指示を出すようにしよう。



### (5) 話を聞かせるルールを整えよう

- 子どもが話しているときは話をしない。
- 「おへそをこちらへ向けましょう。」「ひざの上に手を置きましょう。」「サッ・ピタ・ピーン」などの指示をして、話を聞く姿勢をつくらせる。

### (6) 授業の流れを統一しよう

- 「問題提示→課題（めあて）→見通し→考え方→まとめ→振り返り」を基本的な流れとし、学び方を習得させる。

## (7) 授業はノート指導と心得よう

○ 学年初めにノート指導を行い、形式を統一して丁寧に書かせる。

- ・1時間の流れがわかるように書く。
- ・書いたことは消さない。
- ・いろいろな表現を使って「考え方」を説明する。
- ・授業を振り返り、思ったことを書く。



○ 授業の中でノートの内容を確認するときは、素早くしよう。

### ノートの書き方の基本例（算数科）

問題提示 ○△	課題	[日付を書く。]	
		本時の学習課題	赤鉛筆で囲む。
自力解決	問題	問題を写す。	2マス目にさしで線を引く。
	式		項目と項目の間は1行空ける。 （「考え方」「答え」「まとめ」など他の項目についても同様。）
全体での思考	見通し 考え方	問題解決の方法や結果を書く。 自分の考えを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまくいかなかった考え方、間違った答えがでた考え方も消さずに、次の行に新たな考え方を書く。</li> <li>・図や絵、式（補助的なもの）、言葉などで表す。</li> </ul>
	答え		
まとめ		公式や大切な考えを、子どもの言葉でまとめる。	
練習		練習や発展問題をする。	
振り返り		本時の学習を振り返って書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で分かったこと。</li> <li>・友達の考え方から分かったこと（よさや工夫）。</li> <li>・できるようになったこと、うれしかったこと。</li> <li>・分からなかったこと。</li> <li>・もっと調べてみたいこと。</li> </ul>	

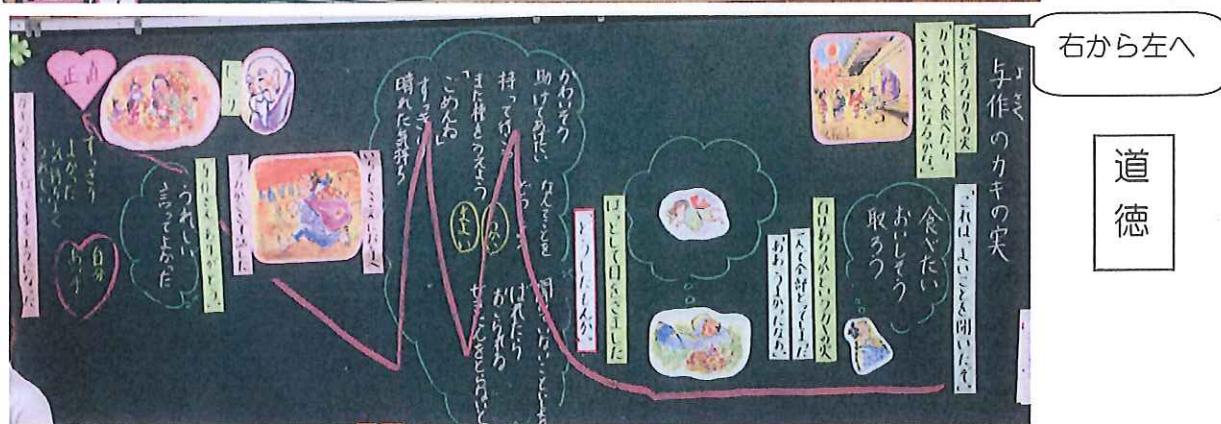
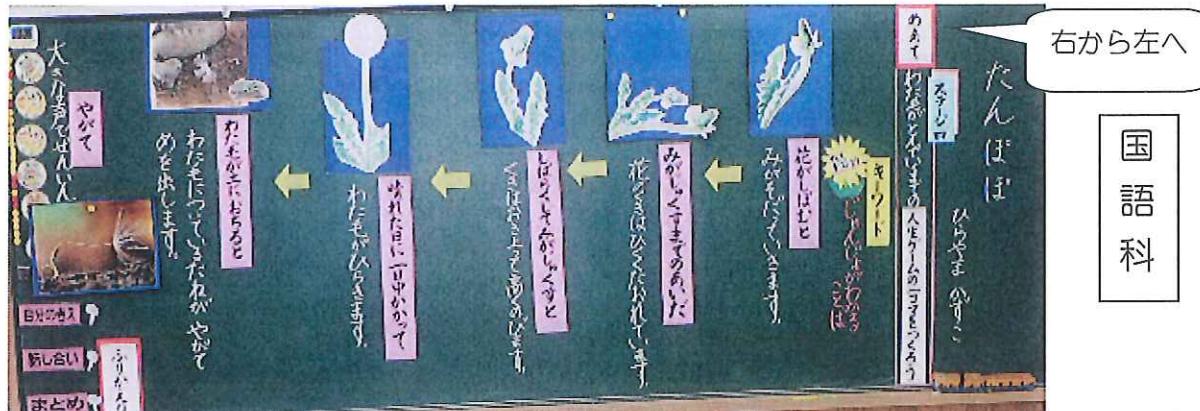
### 児童のノート

ノートの書き方	問題	練習
課題 （単元名） 本時の学習課題	見通し 長方形を作る 三角形を作る	まとめ めんたつつくった公式 高さ×対角線÷2
問題を写す。	考え方 4×4÷2=8 4×2=8 8+8=16 底辺×高さ÷2 対角線×斜辺÷2	公式 平行四辺形×高さ÷2 平行四辺形×底辺×高さ÷2
式 項目と項目の間は1行空ける。 （「考え方」「答え」「まとめ」など他の項目についても同様。）	計算 ①6×15÷2=45 ②7×12×4=56 7×(12+3)=56	計算 ①6×15÷2=45 ②7×12×4=56 7×(12+3)=56
見通し 考え方を書く。 自分の考え方を書く。 ・うまくいかなかった考え方、間違った答えがでた考え方も消さずに、次の行に新たな考え方を書く。 ・図や絵、式（補助的なもの）、言葉などで表す。	見通し 長方形を作る 三角形を作る	見通し 平行四辺形×底辺×高さ÷2で求められる。 平行四辺形は正方形の四辺が平行四辺形でなく正方形の四辺が平行四辺形でないときに用いられる。
見通し 考え方を書く。 自分の考え方を書く。 ・うまくいかなかった考え方、間違った答えがでた考え方も消さずに、次の行に新たな考え方を書く。 ・図や絵、式（補助的なもの）、言葉などで表す。	見通し 長方形を作る 三角形を作る	見通し 平行四辺形×底辺×高さ÷2で求められる。 平行四辺形は正方形の四辺が平行四辺形でなく正方形の四辺が平行四辺形でないときに用いられる。



### (8) 分かりやすい板書づくりをしよう

- 板書の文字（学年に応じた大きさや漢字・正しい筆順・意図のある色使い）
- 学習したことが残るように、流れを意識して必要なことだけを書く。  
簡潔。明瞭に！



**算数科**

めあてからまとめてまでを S 字カーブを描くように！

5(1) わり算  
しきに合う問題を作ろう.

8 ÷ 4  
あめが 8 こあります.  
何人わかれ  
何人に分ける

わたり方式  
1人に4こずつ分けます  
4人で同じ数ずつ  
(何人に分けられますか)

トランフ方式  
1人1人分は何ですか  
1人分は 2 人

8 ÷ 4 = 2  
答え 2(1)

10 ÷ 2  
答え 2(2)

**理科**

課題からまとめてまでを S 字カーブを描くように！

5mL  
じょう液させる  
水... 壊い  
食塩水... 食塩  
100mL  
重さとはかる  
食塩水の方が重い  
さらに食塩をとけ  
食塩水のほうが重くなる

予想... じょう液させる  
重さをはかる  
食塩を入れる... 重くなる

まゆ  
食塩水と水を見分けには、  
じょう液せたり、重さをはしたり、食塩をとかしたりするとよい。

実験方法	結果の予測	同時にねぐ	結果	分かること
5mL じょう液させる	水... 壊い 食塩水... 食塩	水・食塩水 水	A... ない B... 食塩水	A... 水 B... 食塩水
100mL 重さとはかる	食塩水の方が重い	水・食塩水 重さ	A 15.2g B 16.2g	B... 食塩水
さらに食塩をとけ	食塩水の方が重くなる	さじ 水・食塩水 量	A... 重い B... 軽い	B... “”